

清 泉 女 学 院

地域連携センター報

第 17 号

(2024 年度)

Seisen Jogakuin College

Nagano Japan

こころを育てる



SEISEN JOGAKUIN COLLEGE

清 泉 女 学 院 大 学

清泉女学院短期大学

目 次

巻頭言	センター長	岡本 かおり・・・ 1
1. 地域連携センター活動報告		岡本 かおり・・・ 2
(1) 地域連携センター運営委員会		岡本 かおり・・・ 2
(2) 長野市連携事業		事務局 …… 3
(3) 千曲市連携事業		事務局 …… 4
(4) 信濃町との連携事業		事務局 …… 5
(5) 長野商工会議所との連携事業		キャリア …… 6
(6) 長野信用金庫との連携事業		事務局 …… 6
(7) 長野県議会との連携事業		事務局 …… 7
(8) 地域連携プロジェクト～地域活動支援～		
①千曲市子育て支援・発達支援連携プロジェクト		山崎 晃史・・・ 9
②千曲市 観光による地域活性化プロジェクト		森本 佑子・・・ 10
③信濃町における「癒しの森」体験および調査実習		田仲由佳・寺門正顕・・・ 11
④生と性の正しい知識を身につけよう！広げよう！		柴田牧・生井裕子・・・ 12
⑤プレパパ、プレママのペアレンティングセミナー		石川 智恵・・・ 13
⑥二次的被害の防止のためにできること～地域での回復をサポートするには～		岡本 かおり・・・ 15
⑦令和6年能登半島地震による被災者へのボランティア		齋藤 正子・・・ 17
2. 生涯学習部門活動報告		事務局・・・ 21
(1) 公開講座		
①実習生が意欲的に取り組む保育実習		長谷川 孝子・・・ 22
②みんなで待ち望むクリスマス		稲葉 景・・・ 25
③特別講演会『安田菜津紀講演会』		塚原 成幸・・・ 26
(2) 出張講座		
①ワークライフバランス		小泉 真理・・・ 27
②アメリカ文化と日本		山崎 浩・・・ 28
(3) 生涯学習講座実施状況		
①公開講座実績一覧		事務局・・・ 31
②出張講座実績一覧		事務局・・・ 34
3. 地域活動部門活動報告		岡本 かおり・・・ 24
(1) ボランティア活動報告		
①国際コミュニケーション学科2年 A.F.		・・・ 36
②看護学部看護学科2年 A.K.		・・・ 38
(2) Let's try ボランティア活動支援		
①活動報告 チャイルラインながの受け手ボランティア		・・・ 43
②活動報告 STAR OF LIFE CIRCLE		・・・ 44
③活動報告 ワールドフェスタ in 長野		・・・ 45
(3) ボランティア活動参加状況		事務局・・・ 36
(4) ボランティア活動実績		事務局・・・ 38

巻頭言

地域連携センター長 岡本 かおり

地域の声に耳を澄まし、つながりから学ぶ循環を

地域連携センターでは、カトリック精神に基づく本学の建学の理念を体現すべく、地域と大学をつなぐ多様な取り組みを進めています。本学は、学生数・教職員数ともに増加傾向にあります。どちらかというとも規模の小さい教育機関です。2025年4月からは人間学部、人文社会科学部、看護学部、短期大学部の4学部になりますが、長年にわたり、短期大学と人間学部のみで女子大学として歩んできました。いわば、学生・教職員が顔の見える関係性の中で、「ここを育てる」教育を大切にしてきました。このメッセージは共学化してからも変わらず、本学の教育理念であり続けますが、それは、学生が本学での学びを終えて卒業し、社会で生きていく際に、困っている隣人に手を差し伸べ行動できる、そのような力を備えた人間になることを目指すものです。

地域連携センターは、社会に巣立つ前の“最後の教育の場”として、学生と地域が関わる多くの機会を提供しています。学生に限らず、地域住民の皆様、本学の卒業生が何かを学びたいと思った時に、気軽に参加できる場を用意しています。大学で働く私たち教職員にとっても、学部や学科を超えて協働し、研究成果を地域に還元すると同時に地域の課題やニーズを実感できる貴重な場となるなど、多くの可能性を持つものです。

コロナ禍で一時は縮小を余儀なくされた諸活動も、現在では回復基調にあり、公開講座の開催数は増加、出張講座も以前の水準に近づいてきました。各種団体からのボランティア要請も戻りつつあり、学生の参加者数も増えてきています。今後は、地域のニーズや課題により的確に応えられるよう、活動の内容を検討する必要があるでしょう。

今回のセンター報は、「清泉女学院大学」としての最後の発行となります。女子大学としての役割を終え、時代の要請から多様性を受け入れる新たなステージに移行します。これは単なる名称変更にとどまるものではありません。地域にとって必要な学び舎となるべく、私たちはこれまで以上に地域の声に耳を傾けていきたいと思いをします。

本年報が、これまでの歩みを振り返る機会となり、センターが更に地域とつながり、地域から学ぶ「循環」の一つとなることを願っています。

(1) 地域連携センター運営委員会

本学の第3次中期計画の目標を検討・実行するため、地域連携センター運営委員会を計10回開催した。ほとんどの会議はZOOMを使用したオンライン会議での実施となった。

2024年度はコロナウイルスの影響をあまり受けることなく、春学期、秋学期共に「地域活動部門」（ボランティア・イベント・地域との交流活動など）と「生涯学習部門」（生涯学習講座・公開講座・講演会など）の事業は通常通り行う事が出来た。

○地域連携センターの主な事業

① 地域との連携拡大および新規事業に関わる事業

上記連携団体との連携協定に関する事業、及び地域の課題解決・情報交換・交流を積極的に行う。

② 地域連携プロジェクト

地域連携活動の推進のために「学部・学科の教育・研究と地域が有機的につながり地域貢献を推進すること」として、教員と学生が協働する活動費の一部を支援する事業。

③ 学生のボランティア活動に関わる事業

地域から寄せられたボランティア募集情報を学生に提供。また、学生の自主的な地域活動を支援する目的で活動資金の一部を支援する助成金制度「Let's Try ボランティア支援」の募集及び調整を行う。

④ 生涯学習講座事業

公開講座・授業開放・出張講座・映画上映会等の企画・情報発信・受付・実施等広く市民に提供する各種講座を開講する。

なお、地域連携センターが通常担っている主な事業とその実現のために連携協定を締結している団体は以下の通りである。

○連携協定を締結している団体

- ・自治体：「長野市」「千曲市」「信濃町」「小川村」
- ・その他の団体：「NPO 法人夢空間松代のまちと心を育てる会」
「NPO 法人長野市障がい者スポーツ協会」
「長野商工会議所」
「ながの農業協同組合（JA ながの）」
「長野赤十字病院」
「長野信用金庫」

「長野県議会」
「特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト」
「長野市ガイド協会」
「認定特定非営利活動法人長野犯罪被害者支援センター」
「公益財団法人ながの観光コンベンションビューロー」

(2) 長野市連携協議会

長野市との連携協議会は、昨年に続き 2023 年度の連携事業実績の確認と次年度新規連携事業の提案は書面にて行われた。

2024 年度継続を確認した連携事業

【テーマ研究型事業・人づくり】

〈短期大学〉

1. 公共保育所等におけるボランティア事業
2. 幼児教育推進のための事業
3. 児童館体験学習事業

〈大学〉

1. 教育臨床演習事業
2. 心の教育推進(中間教室)
3. 学習チューター
4. 若者のライフデザイン形成支援事業
5. 男女共同参画啓発講座の開催
6. 長野市の公共施設を考える学生ワークショップ
7. 多職種連携と地域フィールドワーク
8. ながの減塩プロジェクト

〈全学科〉

1. 市立長野中・高との連携
2. 地域課題解決のための官学共同研究事業
3. 就業体験生(インターンシップ生)事業
4. 清泉女学院公開講座
5. 清泉女学院出張講座(公民館講座/生涯学習センター講座/市職員のための夜間講座)
6. 結婚を応援する機運の醸成事業

『地域振興、相互協力・協力事業』

〈大学〉

1. 若者等移住・定住情報発信事業
2. 長野市立博物館における文化財レスキューおよび長野市内における仏教美術資料調査事業
3. スマートシティ NAGANO 推進事業
4. 長野市復興祈念事業
5. もんぜんパートナーシップでの長野駅東口周辺の美化活動（看護学部）
6. 伝統文化の継承

〈全学科〉

1. 放課後子ども総合プランのアドバイザー登録
2. 国際交流イベント実施事業
3. スポーツ大会運営支援
4. 選挙関連業務への協力
5. 小中学生向けキャリア教育
6. 附属機関への参画等
7. 伝統文化の継承
8. 若者向けゲートキーパー講座
9. 市民と議会の意見交換会

2025 年度に長野市が新規連携を希望する事業

1. 若手 IT 人材育成プロジェクト

(3) 千曲市連携協議会

2024 年度の千曲市との連携協議会は 2025 年 5 月に対面で実施する。継続する事業と新規に連携を希望する事業の確認をする予定。

2024 年度継続を確認した連携事業

1. 企業・自治体訪問事業
2. インターンシップ事業
3. ボランティア事業
4. 清泉女学院出張講座
5. 千曲市小学校の英語充実ボランティア
6. 保育士の確保
7. 戸倉上山田温泉まちづくり事業

8. 姨捨棚田と月の都千曲・さらしなルネッサンス 月の文化講座
9. 千曲市地域ストーリーづくり事業

2024 年度地域連携プロジェクトで実施した連携事業

1. 千曲市子育て支援・発達支援連携プロジェクト
2. 千曲市 地域活性化プロジェクト

2025 年度に新規連携を希望する事業

1. 姨捨棚田保全活用事業

(4) 信濃町との連携事業

信濃町と相互の発展に資するための包括連携協定を締結し、11 年目となる 2024 年度に連携した事業は以下の通りである。

清泉女学院大学心理コミュニケーション学科の授業連携

「心理基礎演習Ⅰ」（田仲）「心理基礎演習Ⅱ」（寺門・田仲）

・心理基礎演習Ⅰでは、心理コース2年生が、信濃町が展開する「癒しの森」事業である森林セラピーに参加し、メディカルトレーナーの指導の下、森林セラピーの効果や対人コミュニケーションのあり方を学んだ。



・心理基礎演習Ⅱでは、同受講生が信濃町の観光・商業施設を訪問し、職員の方々から施設の概要について説明を受けた。そこで得られた知見をもとに、信濃町の活性化を目的とする社会調査を実施し、得られた研究成果を発表・報告した。受講した学生は、信濃町の魅力と課題、活性化に関する理解を深め、地域貢献への意識を高めることができた。

（５）長野商工会議所との連携事業

長野商工会議所と相互に協力して一層の地域発展に貢献する人材育成を目的に包括連携協定を締結し、10年目となる令和6年度は、連携事業として「キャリア・デベロップメント展開」の授業の中で「企業人と女子学生との座談会」を11/19に実施した。当日は、本学学生約100名と商工会議所会員企業15事業所が参加し、仕事のやりがいや生き方、地域との繋がりについて積極的に質問や意見交換を行い、学生は理解を深めた。

2月には大学2年生1名が長野商工会議所で1週間のインターンシップ（就業体験実習）を行い、実習学生は地域振興や事業内容の理解のほか、社会人として求められる適性を知り職業観を高める貴重な機会となった。

また、1/19, 20に西宮神社の初えびす祭開催時、商売繁盛を願う「お種銭貸し出し」を巫女として6名の学生がお手伝いをした。えびす様の御霊を込めたお種銭を貸し出し、1年間商売繁盛に励み、家内安全、開運招福などご利益をいただき、翌年の参拝時にお返しする習わしで、地元で商売を営む方々を始め多くの参拝客に長時間笑顔で対応した。

ひきつづき、長野商工会議所と連携して産業振興にも貢献できる人材育成をしていきたい。

（６）長野信用金庫との連携事業

就職活動中の短大2年生と大学4年生の学生が、地方金融機関の社会的・経済的役割を理解し、また地域に根差した中小企業を学ぶ機会として、5月15日開催の「第21回長野しんきんビジネスフェア2024」に参加した。

2025年4月設置予定の人文社会科学部情報コミュニケーション学科として「DXブース」に出展した。多くの高校生や一般企業の方にVRゴーグル、ロボットプログラミング、ドローン操縦の体験をしていただいた。

また、長野信用金庫が北信地域で起業・創業を目指す人をサポートする『しんみせチャレンジ2024』では、大学文化学科の教員が、スタートアップ資金最終選考委員として参加した。

同じく、起業を予定している人や起業して5年以内の人を対象に、起業・創業する上で必要となる実践的な知識を学ぶ『創業カレッジ』にも大学文化学科と短大国際コミュニケーション学科の学生が参加した。「お客様目線を知ろう」というテーマで、起業する方々にお客様の立場での学生の意見を述べた。

学生からのアンケートでも「消費者と創業者の考え方のギャップの大きさに驚いた。とても勉強になる機会になった。」意見があり、創業する側と消費者側両方の立場に立った見方を学ぶ貴重な機会を得ることができた。



(7) 長野県議会との連携事業

大学及び短大の持つ研究成果を地域課題の解決に結びつけ、県民のニーズに合った政策形成や調査・研究を進め、魅力ある地域づくりの推進や人材育成に資するに取組を行うことを目的として、令和2年10月24日に長野県議員会館において、長野県議会と包括連携協定を締結した。令和6年2月9日（金）県議会議長、副議長、広報担当の議員や地元選出の議員らが地域住民の方々や次代を担う若い世代の皆さんと意見交換を行う「こんにちは県議会です」がオンラインで実施された。

今年度は残念ながら本学からの参加者はいなかった。

(8) 地域連携プロジェクト

清泉女学院大学・短期大学の教育や研究及び学生と地域が有機的につながり、地域貢献を推進し、地域連携事業開発のノウハウを本学が組織として形成し、今後の地域連携活動の推進を図ることを目的とする教員向けの助成金事業。

自治体・企業・NPOなどの地域団体と協働して行う連携事業であり、営利に偏ることなく、地域の振興及び発展、教育及び研究の充実に寄与する活動であること。また、学生と共に実施し、地域社会に貢献する人材の育成に寄与する活動であることを条件としている

2024年度は7件のプロジェクトを採択した。

	プロジェクト名	担当教員	連携先
1	千曲市子育て支援・発達支援連携プロジェクト	山崎 晃史	千曲市
2	千曲市 観光による地域活性化プロジェクト	森本 佑子	千曲市
3	信濃町における「癒しの森」体験および調査実習	田仲 由佳 寺門 正顕	信濃町
4	生と性の正しい知識を身につけよう！広げよう！～地域への発信、地域の仲間作りを目指して～	生井 裕子 柴田 牧	長野保健福祉事務所
5	プレパパ、プレママのペアレンティングセミナー	石川 智恵	特定非営利活動法人ながのこども の城いきいきプロジェクト
6	二次的被害の防止のためにできること～地域での回復をサポートするには～	岡本 かおり	認定特定非営利活動法人長野犯罪被害者支援センター
7	令和6年能登半島地震の被災者へのボランティア	齋藤 正子	長野県社会福祉協議会 石川県能都町社会福祉協議会 能登町地域ささえあいセンター 災害 NGO「結」

1. 千曲市子育て支援・発達支援連携プロジェクト

人間学部心理コミュニケーション学科 山崎 晃史

1. 活動目的

本プロジェクトは2023年度から継続しており、千曲市における乳幼児期、学童期に関わる地域連携の強化に資することを目的としている。具体的には、3年生の専門演習を通じて、学生が千曲市の子育て支援の場でフィールドワークを行い、関係機関の特徴や地域課題を把握する。そのことを関係者に向けてフィードバックし、地域連携の契機とする。

2. 方法・内容

千曲市の所管部署（子育て支援係）担当者と協議を行い、フィールドワーク先の紹介を進めている。2022年度の専門演習では地域連携プロジェクトとしてではない形で、千曲市役所の保育、保健、子育て支援、障害福祉の各担当者に学生がオンラインで聞き取りを行った。市各部署が集合して学生の疑問に答えていただいた様子から行政内の連携の円滑さを学生は感じ取っていた。2023年度には地域連携プロジェクトに採択され、学生が保育所、子育て支援センター、放課後児童クラブ、こども園を訪問して、参与観察とインタビューを行った。子育て支援センターでは、保育士が子どもと遊びながら親の相談に応じ、親同士の支え合いを促していることを把握し、その役割の重要性を肌で感じていた。

こうした実績を土台に、2024年度は更埴子育て支援センター（9/27・10/4・10/11・10/18）、屋代児童センター（放課後児童クラブ：9/19・9/27・10/4・10/18日）、稲荷山くるみこども園（10/4・10/11・10/18・10/25）、かみとくま食堂（子ども食堂：8/7・8/21・8/28・9/4）で各所ペアになりフィールドワークを行った。また、障害福祉関係者および市役所障害福祉担当者と話す中で、障害福祉領域の成人施設をフィールドワーク先として追加し、3名の学生が4回にわたり関わった（社会福祉法人いなりやま福祉会の就労継続支援事業所）。

3. 成果または結果

学生は各施設・事業の特徴を把握しまとめた。子育て支援センターでは親子への積極的なアプローチよりも「見守り寄り添う」姿勢がポイントであること、放課後児童クラブでは多様な児童一人ひとりに応じた柔軟な対応にポイントがあること、こども園では絵本の読み聞かせや散歩に力を入れていること、子ども食堂では、地域での集う場を創出する目的で行われており、必ずしも貧困の課題に特化したものではないこと、就労継続支援事業所では、地域との交流を図りより良い生活環境を作り出そうとしていることを把握した。

4. 地域連携事業開発へのモデル事業としての意義と成果について

新しい視点を地域にもたらすことにまでは至っていないが、学生が地域人材となることの土台づくり、臨床心理学の立場からの地域貢献の土台づくりになっている。

2. 千曲市観光による地域活性化プロジェクト

国際コミュニケーション科 森本 佑子

対象学生 (学年・人数)	国際コミュニケーション科 2年生 3名 (6月は姉妹校からの留学生2名も参加)
連携団体名	千曲市 経済部産業振興課、経済部観光課、信州千曲観光局 各ご担当者様
目 的	持続可能な観光の在り方を考える上でも地域に根差した観光教育の重要性が高まっている。今後の地方創成を担う学生に具体的実践的な学びの機会を設け、地域観光がどのように成り立つのか、その在り方を千曲市の活動背景や実際の活動に携わらせていただきながら学び、交流や体験を通して考察する機会を設けたい。
内 容	- 千曲市の観光の具体的な取り組みについての調査・ヒアリング - 千曲市が抱える課題・観光の現状についてのヒアリング
具体的な活動 (5月～7月)	5月中旬 千曲市の観光振興について千曲市経済部観光課のご担当者様にご来校いただき、お話をお聞きした。 5月下旬 日本遺産センターや千曲市観光局のご担当者様から棚田の維持保存の現状や観光の現状についてお聞きし、地域課題について現地で学ばせていただいた。FW 後、地域交通の課題にも着目しながら市が活用を進めているシェアサイクリングを活用した外国人観光者向けの旅程を作成した。 6月下旬 作成した旅程を実施し、参加者と共に千曲市の観光資源活用の可能性や地域観光にどのような課題があるかを検討し、意見交換を行った。
具体的な活動 (8月～ 翌1月)	上記活動後、今回の活動に参加した学生が 「稲荷山重要伝統的建造物群保存地区の地域住民の取り組み」 「姨捨の棚田オーナー制度とアグリツーリズム」のテーマで現地調査を実施し、年度末(1月)の清泉フェスティバルで発表を行った。 内1名は学内外へ配布される本学の「カレッジ通信」で活動を報告した。
成果・結果	学外実習後には課題解決に向けて学生から出された具体的な意見をレポートにまとめ、ご協力いただいた千曲市の方々へご報告すると共に関係部署内で共有していただいた。次年度の活動に向けた新たな課題を絞り込むことができた。

地域連携事業開発へのモデル事業としての意義と成果について	今年度は、春学期までの活動をベースにして学生個人がフィールド調査を継続し、それぞれのテーマを深堀しながら活動を行った。連携団体としてご協力いただいた方々はもちろん、本活動を機に千曲市にお住いの方々や観光関係団体様からも伝統的建造物群保存地区の制度や保存活用計画に関する課題、地域住民の関わり方についても意見をお聞きすることができた。学生に貴重な学びの機会をいただいていることに大変感謝している。(4年制大学への移行に伴い)次年度以降は中・長期的な活動計画も視野に入れて、千曲市の地域観光振興に貢献できるような活動を展開していきたい。
------------------------------	--

3. 信濃町における「癒しの森」体験および調査実習

人間学部心理コミュニケーション学科 田仲 由佳・寺門 正顕

心理コミュニケーション学科心理コース2年生が、専門導入科目「心理基礎演習Ⅰ」「心理基礎演習Ⅱ」において本学と地域連携協定を結んでいる信濃町を題材に、一連の学習活動を行った。

主な活動内容は以下の通りである。

- ・心理基礎演習Ⅰでは、癒しの森事業を展開しているしなの町 Woods Life Community の協力を得て、森林セラピー体験実習を実施した。受講生が現地を訪問し、当該団体に所属する森林メディカルトレーナーを講師として、牡鹿池で森林セラピーを体験した。

- ・心理基礎演習Ⅱでは、信濃町の各観光施設（黒姫童話館、ナウマンゾウ博物館、道の駅しなの）を訪問し、現地の職員から施設の沿革や運営に関する説明を受けた。そこで得た学びをもとに、地域が抱える課題や地域活性化の手がかりを得ることを目的として、質問紙調査を企画、実施し、研究成果を授業内で発表した。また、得られた知見を信濃町に報告した。

- ・心理基礎演習Ⅱにおいて、しなの町 Woods-life community より講師を招喚し、アロマ講座「信濃町からの香り」を実施した。講演では、アロマの歴史や効果、活用場面などについて学び、ワークショップでは、クロモジを使ったサシェ（香り袋）やアロマスプレーを作成した。

本プロジェクトによる成果として、以下の点が挙げられる。

- ・信濃町での森林セラピー体験を通して、森林メディカルトレーナーから対人交流や援助の視点を学びとり、心理学が社会の中でどのように活かされているかを理解することができた。また、活動の様子および得られた知見を本学のHPで発信することができた。

- ・グループで質問紙調査を実施することで、心理学の研究法の一つである調査法を修得するとともに、地域が抱える課題や地域活性化の手がかりとなる知見を得ることができた。

・上記の一連の取り組みを通して、受講生が信濃町に対する理解を深め、地域貢献への意識を高めることができた。



4. 生と性の正しい知識を身につけよう！広げよう！ ～地域への発信、地域の仲間作りを目指して～

看護学部看護学科 柴田 牧
人間学部心理コミュニケーション学科 生井 裕子

① 活動目的

本プロジェクトは、若者が生と性の正しい知識を身につけることを目的とした「思春期ピアカウンセラー養成講座」の開催、そして知識を学ぶ過程での仲間作りや、同年代の青少年に対する啓発活動を行うことの支援を活動の目的とした。

② 方法・内容

長野県で活動する思春期ピアカウンセラーの養成に向けて、「養成講座ベーシックコース」(8/10～13 15名参加)、「養成講座フォローアップコース」(3/10～11 9名参加)を開催し、清泉女学院大学・須坂看護専門学校から学生が参加した。また、受講者はインカレサークル Happy Life☆PEERS (HLP) に加入した。養成講座では、認定講師や産婦人科医からの講義やワークショップ、養成講座を修了した先輩ピアからのピアサポートや交流等を通じて、参加者が生と性の正しい知識を身につけることや、その知識を同年代の若者に伝えていくためのスキル形成を支援した。

③ 成果・結果

HLPの活動には多方面から関心を寄せられた。HLPに加入した学生たちによる今年度の主な地域活動は、JOICFP主催の開発途上国の母子保健の指導者を対象とした研修会・長野県

教育委員会主催「性に関する指導研修会」での模擬ピアエデュケーション、児童養護施設・養護学校・中学校での中高生を対象としたピアエデュケーション、清泉祭でのピアカフェなどである。

実施内容は、性感染症の広がりを実感するワーク、ネゴシエーションの体験、コンドームについてなどであり、対象者に合わせて実施した。主催者や参加者からは好評であり、若者たちがこのような活動をしていることを知った、物事の考え方の幅が広がった、性に関することは恥ずかしいことではないと感じた、ピアの年齢が近いと構えずに話を聞いた、などの感想があった。

④ 地域連携事業開発へのモデル事業としての意義と成果について

長野県における「思春期ピアカウンセラー養成講座」の安定的な継続開催を目指すため、本プロジェクトに関わった認定講師や長野保健福祉事務所と連携して、今後の長野県広域における養成講座開催に向けたノウハウを蓄積できたのが本事業の意義である。また、HLPに加入した学生が長野県域で活発な地域活動を展開し、新聞記事への掲載等により地域への活動周知が進み、多くの学校や施設でピアエデュケーションを実施できたことが本事業の成果である。

5. プレパパ、プレママのペアレンティングセミナー活動報告書

看護学部看護学科 石川 智恵

1. プロジェクト名

プレパパ、プレママのペアレンティングセミナー

2. 活動目的

- ①初めて出産、育児を迎える夫婦が、新たな役割と生活にスムーズに適応するために、出産後の子どものいる生活を具体的にイメージし、どのように生活していくのかを2人で考える機会とする。
- ②同じ状況にある人達との交流を通して、地域における仲間づくりの場とする。

3. 方法・内容

1) 開催日程

奇数月の土曜日 10時～12時30分

2) 対象

長野市とその近郊に在住の第一子妊娠中の妊婦と夫

3) 内容

①先輩家族との交流

先輩パパ、ママの出産・子育て体験談と質問コーナー
実際の赤ちゃんとの触れ合い

②夫婦でペアワーク

出産後の24時間の生活を考える。

お互いへの感謝の気持ちと子育てに対する願いを伝え合う。

③演習体験

抱っこ、オムツ交換、着替え、沐浴

4. 結果

1) 開催日と参加状況

開催日	参加状況
5月25日(土)	妊娠期の夫婦2組・先輩家族2組
7月27日(土)	妊娠期の夫婦4組・先輩家族2組
9月21日(土)	妊娠期の夫婦7組・先輩家族2組
11月24日(日)	妊娠期の夫婦3組・先輩家族1組
3月22日(土)	妊娠期の夫婦7組・先輩家族3組

*1月25日は申込希望者がいなかったため中止となった。

2) セミナーの評価(アンケート結果より)

①セミナーに参加した理由

出産後の生活にイメージが持てず、何もかも不安である、出産後の生活を2人で考えたいなど、問題意識を持って参加している人が多かった。

②セミナーの感想

先輩家族との交流や夫婦でのペアワークを通して、夫婦で出産後の生活を具体的にイメージしてどのように生活していくかということを考えるきっかけになっていた。また、夫婦で出産後の生活を話すことでお互いの考えや気持ちを確認し合い、夫婦のコミュニケーションやお互いを思いやることの大切さを実感していた。さらに、他の参加者と話すことで、誰もが不安や悩みを持っていることを知り、安心感を得られていた。

5. 地域連携事業開発へのモデル事業としての意義と成果、今後の課題について

参加者からのアンケート結果より活動目的が達成されていることがわかり、現在国が推進している妊娠・出産・育児における伴走型支援の一つになり得ると考える。

本セミナーを継続して行うことで、長野市内でも周知されるようになった。今年度も長野県長野保健福祉事務所の主催により、北信地域の行政と医療施設の母子保健に携わっている人を対象にした母子保健支援検討会で講演を行った。また、長野市保健所の保健師も本セミナーを見学し、出産準備教育の重要性を認識し、本セミナーを各保健センターで周知するようになった。さらに、来年度からは長野市との協働事業として本セミナーを運営していくことになった。このように本セミナーは地域連携事業開発へのモデル事業としての意義があると考えられる。

本セミナーは夫婦のコミュニケーションを促進し、2人で出産後の生活を考えるきっかけにはなっている。しかし、2022年の育児・介護休業法の改正により男性の育児休業取得が増加し、出産後の早い段階から夫婦で協働して育児を行う必要性が高まっていることをふまえ、今後は本セミナーを夫婦が出産後の現実的な生活の中でどのように協働して育児をしていくかを考え、夫婦で問題解決や意思決定を行えるようになるための学習プログラムにしていく必要がある。そのため、現在行っている研究活動(初めて親になった夫婦の育児における協働の実際とそれぞれの認識)の結果をふまえて本セミナーを効果的な学習プログラムにしていきたいと考える。

6. 二次的被害の防止のためにできること

～地域での回復をサポートするには～

人間学部心理コミュニケーション学科 岡本かおり

岡本ゼミでは臨床心理学やカウンセリングの理論やスキルを応用した調査研究活動を行っています。2024年3年生ゼミ(専門演習ⅡJ)13名は、犯罪の被害を受けた方が速やかに回復するため、私たちにできることを調べました。3～4名でグループを作り、犯罪の被害から回復するために必要なことなどを調べ、アンケート調査をしたり調べた内容をまとめたりしました。最近では芸能界での児童虐待やタレントの性暴力が大きく報道され、2023年7月には性犯罪に関する刑法が大きく改正されました。盗撮やSNSを利用した子どもへの性犯罪を防止する法律も新設されるなど社会が動き出したことが分かります。一方、性暴力という言葉は他人事に聞こえ、被害者支援というと何をしたら分からない人も少なくないと思います。

そこで、調べた内容を分かりやすくまとめ、ポスターやステッカーを作成し、ホームページも作成しました。ポスターやカードはポップな色調にし、パワーポイントにまとめる際に作成した文章をシールやクリアファイルに印刷しました。QRコードからはホームページに飛んで詳しい内容を確認することもできます。目に入る場所に置き使用することで、身近な問題として考えていただければ幸いです。

なお、長野県性暴力被害者のワンストップ支援センター「りんどうハートながの」、本学の連携団体でもある「認定特定非営利活動法人長野犯罪被害者支援センター」の皆様には、本プロジェクトを実施するに当たり、貴重なご意見をいただきました。ここにお礼申し上げます。

資料1 「あなたは悪くないよ」(はがき大・カード)



資料2 「誰が相手でも大切なこと」(名刺大・シール)



資料3 (A4 クリアファイルに印刷した文章)

「 同意ってなんだろう
自分と相手の感情に差がある
でも、これって当たり前 」

資料4 「性犯罪について考えよう」
ポスター (A3 判)



7. 令和6年能登半島地震の被災者へのボランティア

看護学部看護学科 齋藤 正子

看護学部のボランティアサークルの有志などが集まり、「令和6年能登半島地震」の発生後の9月と、「令和6年能登半島地震」後の11月に「看護の視点から何か力になれば」との思いで2日間ずつ2回、支援活動に参加した。

活動概要

- 日時：1回目 2024年9月4日(水) ～ 9月5日(木)
2回目 2024年11月2日(土) ～ 11月3日(日)
3回目 2025年3月7日(金) ～ 3月8日(土)
- 協力団体：石川県能登町社会福祉協議会、能登町地域ささえあいセンター
長野県社会福祉協議会
災害NGO「結」
- 活動内容：
 - ①復旧期の被災者支援活動（被災者の住宅、宅地、農地等のがれき等の撤去、泥かき及び被災者の生活支援等）を行う。
 - ②被災者や支援者の健康支援活動を行う。
 - ・生活支援相談員とともに被災者宅に同行訪問：健康相談
 - ・応急仮設住宅の集会室等で健康に関するイベントを行う。
- 宿泊：能登町宮地の「春蘭の里」（交流宿泊所こぶし＋農家民宿群）
- 目的：
 - 1) 被災した地域や住民が、1日でも早く元の生活に戻ることができるよう支援する。
 - 2) 被災地でのボランティア活動により被災地の復興状況や被災地の生活状況を理解することができる。
 - 3) 被災者の思いを聴き、災害中長期の看護を考えることができる。

6. 行程 ＜1回目＞

参加者：看護学部看護学科 教員1名：齋藤正子、小出由紀（ボランティア）

看護学部看護学科学生9名（3年生4名、2年生3名、1年生2名）

日程	内容	対象者
2024年9月4日	8:00 長野駅出発 長野駅～金沢駅～能都町まで JR利用にて現地へ 12:30 能都町穴水駅到着、自動車にて現地へ	教員：1名 1名 学生：9名

	14:00～16:00 ボランティア先： 遍照寺（能都町白丸）にて活動 19:00 宿泊先：春蘭の里に到着	
2024 年 9 月 5 日	9:00～11:30 春蘭の里交流所で地元住民との交流会 12:30～13:15 ボランティア先：春蘭の里交流所にて活動 13:20～14:00 春蘭の里代表：多田様の講話 15:00～ 能都町穴水駅出発能都町～金沢駅～長野駅まで JR 利用にて帰宅	教員：1 名 1 名 学生：9 名

<2 回目>

参加者：看護学部看護学科 教員 1 名：齋藤 正子、小出 由紀（ボランティア）

看護学部看護学科 4 年生 5 名

運転ボランティア：長野市災害ボランティア委員会 2 名

日程	内容	対象者
2024 年 11 月 2 日	6:30 清泉女学院大学東口キャンパス出発 →レンタカー2 台、自家用車 1 台利用 上信越道～北陸道～能越道経由で現地へ 15:00 石川県能登町「春蘭の里」到着 15:40～17:15 被災者の方との交流会 18:30 宿泊施設へ移動	教員：1 名 1 名 学生：5 名
2024 年 11 月 3 日	8:45 石川県輪島市里町 里町集会所に集合 9:00 ボランティア活動開始 被災者宅の空地に集積してある土の撤去作業および散乱しているゴミの回収作業 11:45 昼食 14:30 ボランティア終了 17:30 災害 NGO「結」の活動拠点へ (石川県七尾市中島町外 2-1 旧西岸小学校) 18:00 帰路へ（レンタカー2 台、自家用車 1 台利用） 22:50 清泉女学院大学東口キャンパス着	教員：1 名 1 名 学生：5 名

<3 回目>

参加者：清泉女学院大学 看護学部看護学科 教員1名：齋藤正子

小出由紀（ボランティア）

信州まちの減災ナースの会：1名 看護学部看護学科 4年生：4名

日程	内容（概要）
2025年3月6日	12:30 清泉女学院大学東口キャンパス出発 →レンタカー1台、自家用車1台利用 上信越道～北陸道経由で富山県高岡市へ 17:00 スマイルホテル高岡駅前店到着、前泊
3月7日	7:15 スマイルホテル高岡駅前店出発 能越道経由で石川県能登町役場へ 10:15 石川県能登町役場到着 イベントサロン『うえるのとカフェ』打合せ・会場準備 12:30 受付開始 学生と教員で会場案内、お茶の提供 13:00～15:00 イベントにて参加者の方と交流 15:00～16:00 イベント終了、片付け 17:30 宿泊施設「春蘭の里」到着
3月8日	9:00 「春蘭の里」被災者の健康支援交流会の準備 10:00～12:00 能登町宮地地区住民との交流会 12:00～12:30 交流会終了、片付け 13:00 帰路へ 19:00 清泉女学院大学東口キャンパス着・解散

学生からは「被災地支援としてボランティアで行き、ニュースなどの映像では得られない情報や課題を自分の目で見たことや感じたことを伝えることが災害を忘れない事に繋がるのではないかと」と感想があった。また、現地の中山間地域では顔見知りの関係により復興が進んでいることから、過疎地域が多い長野県においても活用できるのではないかと考えており、地域特性に合わせた支援の重要性を学ぶ機会となった。

(1) 参加者の感想

- ・長野の方が多く来てくれる。また来てくれてうれしい。皆の笑顔を見て、ホッとした気持ちになれた。
- ・肩が凝っていてマッサージに行こうと思っていたところなので、楽になった。夫にもマッサージしてあげたいと思った。
- ・若者が来てくれて、フレッシュな気持ちになれた。
- ・足湯でスッキリでき、肩も温かくなってリラックスできた。

(2) 学生の感想

- ・初めて被災地に来た。知らない人が来ることは、地元の方にとってはストレスになることもある上、初対面の人に靴下を脱いで足を見せるのも嫌だと思ってしまう方もいると思っていた。でも、マッサージや足湯が楽しみだと言ってもらえてうれしかった。
- ・参加者の皆さんが笑っているのをみて、私も嬉しい気持ちになった。
- ・初めて被災地に来て、皆さんとお話をしたり、ケアをしたりすることで多くを学ぶことができた。
- ・令和元年東日本台風で長野が被災した時には能登の方たちが支援に来てくれたので、今度は長野の私たちが力になりたいと思っていた。今回、それが叶った。皆さんの笑顔が見られて幸せな気持ちになった。

(3) 長野市災害ボランティア委員会の方の感想

- ・看護学生と地元の方の交流会に初めて参加した。学生さんと高齢の参加者さんとの関わりをみて、母親を思い出した。
- ・今まで、泥出しなど現場でのボランティア活動だけだった。このような交流会は、人の温もりが感じられてよかった。「人を助けるのは人だ」ということを感じる事ができる会だった。



(4) 能登町イベントサロン『うえるのとカフェ』への参加した学生の感想

- ・看護学生が作成した脳トレ（能登の特産品・地名・方言のカード 20 枚）を全員で行った。7 グループに分かれていたためグループに 1 名ずつ学生・教員がファシリテーターとして入り、5 分間で何問回答できるかを競った。脳トレが思っていたよりも盛り上がったのが嬉しかった。地元の名産品や地名などの言葉を選んだのがよかったと感じた。方言の意味や名産品の作り方を参加者に質問したり教えてもらったりすることで会話がはずみ、話題のきっかけとなった。
- ・参加者どうして楽しそうに話す姿が印象的だった。
- ・「今日は来てよかった。また来たい。」と言っていた参加者や、久しぶりに笑いながら話したと言っていた参加者がいた。このような会が必要だとされている意味を理解することができた。

2. 生涯学習部門活動報告

事務局

本学地域連携センターでは、地域貢献事業として「特別講演会」「公開講座」「出張講座」を実施している。2024 年度は感染症対策等による制限をせず開催することができた。春学期 25 講座、秋学期は 18 講座開催した。

今年度の公開講座は昨年を上回る年間 1 名が受講し、文化的な学びのニーズがあることがわかる。防災をテーマにした特別講演会は 60 名の来場者にお越しいただき好評を得ることができた。

出張講座についても、講座によって人数制限はあるものの開催することができた。「音楽」や「健康」などをテーマとした講座は依然として地域からの需要がある。

さらに今後は、講座内容の見直しを進めつつ、また東口キャンパスの利便性や上野キャンパスに建設した新しい新演習棟を活かすことで、受講生の増加や満足度向上に注力し、知の拠点としての大学の役割を最大限に発揮し、地域社会に貢献し続けていきたいと考える。



「世界の歴史と文化」



「イースターって？」

(1) 公開講座

①子どもの『育つ』を支える保育について考える

幼児教育科 長谷川 孝子

幼児教育科は、公開講座の一環として保育特別講座を開催した。各講座を保育士等キャリアアップ研修に対応させることにより、現場保育士の研修の機会とした。本講座開催の主旨は、以下のとおりである。

(主旨)

1 演習棟を活用し、地域の保育の質向上に貢献する

保育現場では、日々保育の専門性の維持・向上が求められており、保育士等は研修への参加が不可欠となっている。保育者養成校が専門の立場から積極的に研修の機会を提供することは、保育現場のニーズに応えるだけでなく、今まさに保育に求められている最新の情報を提供することにもなり、地域の保育の質向上に資するものと考ええる。加えて、通常の研修会は、グループワーク等を取り入れたものもあるが、多くは講義形式で行われている。その点、保育演習棟を活用した研修内容は、実際の保育を想定し、演習形式で研修を行える可能性があり、より実践的・効果的な研修が期待できる。

2 卒業後のリスクリングや早期退職者に対応する

社会状況の変化に伴い保育に求められる職務内容が質・量共に高くなっていることに比して、昨今の学生の質の低下等が課題となる中、2年間では十分な保育者養成ができにくいという現状がある。そのため卒業後も力量形成のためのリスクリングが必要となる。また、保育現場の現状として、卒業後の早期離職者が多いことも深刻な課題となっている。以上の点から、卒業後も保育現場と共同してリスクリングを行うとともに、卒業生へのケアが必要になってきている。その点、卒業後も学び続けるための機会の提供や、いつでも気軽に母校に立ち寄り、悩みを相談したり、力不足を補えたりする機会があることは、経験年数の浅い保育者や卒業生にとって意味のあるものと考ええる。

3 学生募集への期待

本学が積極的に専門職者向けの講座を打つことは、地域社会において現場と共同して保育者養成を行う機運を高めることにつながる。ひいては本学への信頼度アップに繋がり、学生募集にもよい影響を与えるものと期待する。

以上の理由から、専門者向けの特別講座を開講した。

合わせて、これを保育士等キャリアアップ研修の一環として企画することの理由。

- 1 保育士の参加が見込める。幼稚園教諭の参加をどう促すかが課題。
- 2 「保育実践（音・図・体・読み聞かせ）」は経験年数の浅い保育士が参加する分野であるため、卒業生の参加が見込めるため同窓会的な要素が期待できる。上記本講座の意図 2 に挙げた卒業生へのケアに期待ができる。
- 3 多くの現場保育者の参加を促し、対話型の講座内容にすることにより、現場の生の声を拾うことができる。それを授業などに活かしたり、学生の学びを講座でフィードバックしたりするというような学びの循環をつくることにより、実務者と学生、教員にとってより実践的・実学的な学びが期待できる。

〈講座内容と実績〉※【】 保育士等キャリアアップ研修の対応分野

※各講座 2 時間

【幼児教育】

1. 「子どもの「育ち」をつなぐ幼保小の接続―＜10 の姿＞をいかすには―」（西山）
開催日 2024 年 8 月 24 日（土）
参加人数 31 名 保育士等キャリアアップ希望者 28 名
2. 「子どもの一日の生活と保育」（碓井）
開催日 2024 年 8 月 24 日（土）
参加人数 34 名 保育士等キャリアアップ希望者 31 名
3. 学び直しの幼児教育 “新” と “真”（碓井）
開催日 2024 年 11 月 2 日（土）
参加人数 40 名 保育士等キャリアアップ希望者 34 名

【障害者保育】

4. 発達に課題を抱える子ども理解とストレングスアプローチ（小松）
開催日 2024 年 8 月 24 日（土）
参加人数 44 名 保育士等キャリアアップ希望者 38 名

【乳児保育】

5. 乳児の主体性と保育担当制（長谷川）
開催日 2024 年 11 月 2 日（土）
参加人数 32 名 保育士等キャリアアップ希望者 31 名

【マネジメント】

6. 実習生が意欲的に取り組む保育実習（長谷川）
開催日 2024 年 7 月 29 日（月）
参加者 33 名 保育士等キャリアアップ希望者 27 名
7. 働きやすい環境作りに活かすコミュニケーションスキル（渡邊）
開催日 2024 年 11 月 2 日（土）

参加人数 23名 保育士等キャリアアップ希望者23名

【保育実践】

8. ハ長調で弾くこどもの歌～保育に活かせる電子ピアノの裏ワザ～ (山崎)

開催日 2024年7月29日(月) 参加人数 9名

9. 子どもの造形表現の理解と援助 (樽井)

開催日 2024年11月2日(土)

参加人数 7名 保育士等キャリアアップ希望者6名



②みんなで待ち望むクリスマス ——クリスマスリースを作りながら、クリスマスの本当の意味を学 びましょう！——

看護学部看護学科 稲葉 景

毎年12月25日には、イエス・キリストの誕生を記念して世界中でクリスマスが祝われ、日本でも街中にクリスマスツリーやクリスマスリースなどが見かけられます。しかし、クリスマスツリーやクリスマスリースは何のために飾られるのでしょうか。

公開講座「みんなで待ち望むクリスマス——クリスマスリースを作りながら、クリスマスの本当の意味を学びましょう！——」は、キリスト教やクリスマスに関する基礎的な知識を学んだうえで、実際にクリスマスリースを受講生みんなで作る講座です。

講座は2部制となっていて、前半はキリスト教の基礎的な知識にふれたのち、クリスマスについて学びます。例えば、クリスマスは12月25日だけではなく、その前には待降節（アドヴェント）というクリスマスを待ち望む期間、その後には降誕節というクリスマスをよろこぶ期間があること、クリスマスに飾られるツリー、リース、馬小屋（プレゼピオ）などの意味について文化的な意味についてお話をします。その後、カトリックにおける色の意味（クリスマスカラーの意味）について説明をしてから、後半には実際にみんなでクリスマスリースを作成しました。同じリースの型を使うのですが、受講者のみなさんは準備したリボンやクリスマスの飾り（ピック）など使って、一人ひとりの個性があらわれたすてきな作品を作成してくださいました。受講生のかたがたは学生さん、親子連れからご高齢のかたまで幅広い年齢層でしたが、一緒にリースを作りながら、いろいろとおしゃべりをされていて、和気あいあいとした雰囲気で行うことができました。

この講座は、東口キャンパスでクリスマスイベントを開催するための広報として、2019年度より行っています（新型コロナの影響で不開講の年度あり）。長野県内だけでなく、北陸甲信越における唯一のカトリック大学である本学が、このような公開講座やクリスマスのイベントを通して、地域のかたがたに本当の意味でのクリスマスのよろこびを伝えるきっかけとなることをころから願っています。



③2024 年度特別講演会 山村武彦氏 講演会

「家庭や地域の防災・危機管理」

幼児教育科 塚原 成幸

本学では、毎年、生涯学習事業の地域発信・特別企画として、映画上映会や特別講師を招いての特別講演を実施している。今年度は、実践的防災・危機管理の第一人者であり、防災システム研究所 所長の山村武彦氏をお招きして、地域の方々と家庭や地域の防災・減災のあり方を考える講演会を11月3日（祝）に長野駅前にある東口キャンパスで行った。

2024 年は正月に能登半島地震が発災し、本学も少なからず影響を受けた令和元年東日本豪雨災害から5年という節目も意識して、地域防災というテーマを取り上げた。今回、講師を引き受けていただいた山村氏は数多くのメディアでコメンテーターなどをされており、防災や危機管理に対して関心がある市民が熱心に耳を傾けた。

講演会では、山村氏が実際に足を運んで見聞きしてきた様々な災害時のエピソードや映像の紹介や災害時に最も必要とされる、「自助・近所・共助」の定義や意義についてわかりやすく解説していただいた。

地域連携センターは、これからも地域へ開かれた大学として、市民の方々に喜ばれ、感動していただけるような様々な文化事業を企画していきたいと考えている。

2024年度
清泉女学院 地域特別講演会

参加費
無料

家庭や地域の 防災・危機管理

講師 山村武彦氏

日時 11/3 13:30～15:00
(開場 13:00)

会場 清泉女学院大学・短期大学
長野駅東口キャンパス

定員 要申込150名 (定員次第締め切り)

山村武彦氏 防災システム研究所 所長
1984年、新潟県東部の災害ボランティア活動を開始し、防災・危機管理のシンクタンク「防災システム研究所」を設立。以来30年以上にわたる、国内外で発生する災害の現場調査を行っている。主に関東圏での地震や洪水、台風活動などを巡り、防災意識の啓蒙に努め、多くの企業や自治体の防災顧問やアドバイザーを兼任し、今後必ず発生するであろう災害に備えるための実践的な防災マニュアルやBCPの策定、研修など、実地に強い企業、団体の数に増える。左右の顔が「良友と敵対し、同時に良友」である「災害に強いまちづくり」は国家の力、而して市民の力、而して市民の力など多岐。

お申し込み・お問い合わせ
清泉女学院大学・短期大学
地域連携センター
026-295-1325 (平日9時～18時)
opencollege@seisen-jc.ac.jp



山村氏の講演を熱心に聞く聴講者
それぞれが熱心にメモをとる姿が
印象的であった。

(2) 出張講座

① ワークライフバランス

人間学部文化学科 小泉 真理

日時：2024 年 12 月 8 日、13 時 30 分～15 時 30 分

場所：小川村公民館

毎年のように『ワークライフバランス』をテーマに出張講座のご依頼を受けています。昨年は東御市で子育て中の女性たちにむけてお話しをさせていただきました。今年は小川村の「熟年大学」に参加されているシニアの方々を中心にこれまでの人生を振り返りながら、今後どうしたいかを考えていただきました。「ワークライフバランス（WLB）は、仕事と生活の調和を意味し、個人がやりがいや充実感を持って働きつつ、家庭や地域で健康で豊かな生活を送ることを指します。これは、多様な働き方や生き方を選択できる社会の実現を目指すものです。

小川村の「熟年大学」での講座では、人生の後半を迎えた方々が多く参加されました。彼らは「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担が強かった時代を生き、現在は子育てを終え、好きなことを楽しみながら日々を過ごされていました。特に農業を生業としてきた方が多く、今でも畑仕事を続けている方も少なくありませんでした。

大学では、WLB は人生全体で考えるべきものであり、職業生活、家庭生活、個人生活のバランスを各ライフステージ（学生期、独身期、子育て期など）で検討するよう指導しています。各生活の中には様々な役割があります（図 1 参照）。人は一人で複数の役割（職業人、家庭人、親、学習者など）を担っており、各ステージでどの役割をどの程度果たすかを考え、人生全体でそれぞれの生活バランスを考えよう、というのがワークライフバランスの考え方です。

多くの人は、職業生活中心の時期を経て、退職後は家庭生活中心に移行します。今回の参加者の多くは、農業という職業を配偶者と共に営み、職業生活と家庭生活が重なる生活を送ってきました。子育てを終えた現在も、畑仕事を楽しみ、地域の人々と交流しながら幸せな日々を過ごされていました。

WLB の考え方は、都市部で仕事に追われ、家庭生活や個人生活が犠牲になりがちな状況を前提としています。しかし、今回の講座を通じて、地域性や生き方の多様性を再認識しました。同時に、参加者の子供世代や孫世代が都市部で働く現状も知りました。農村部に

においても、WLB への理解が世代間の円滑なコミュニケーションのために、今後ますます重要になると感じました。

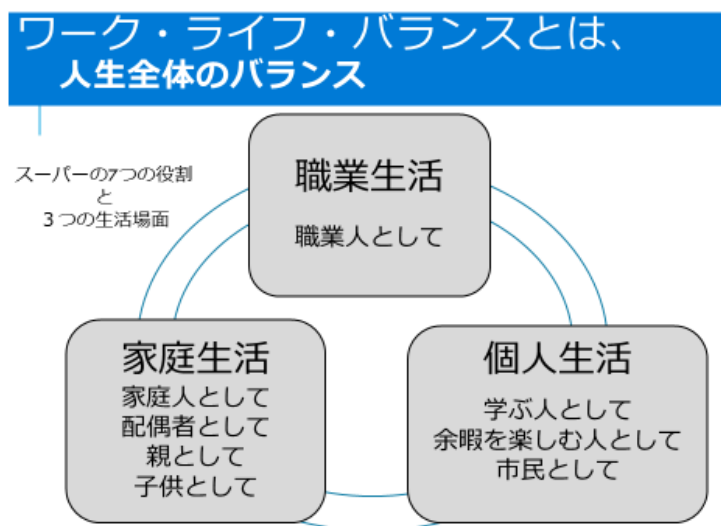


図1：「ワークライフバランスとは」（筆者作成の講座資料より）

②アメリカ文化と日本

人間学部文化学科 古橋昌尚

日程 2024年11月7日（木） 14:00～15:30

場所 長野県小川村公民館 社会人講座

参加 40名

概要 次第

はじめに アメリカ合衆国のイメージについて 日本のイメージ

1. 異文化理解入門 世界の国々では？ エクササイズ 物語（4）

2. 文化比較 物語 日米比較の物語（10） 興味を引く日本人の所作（6）

3. アメリカ合衆国のイメージ： アメリカ人・文化、国、シンボル等

4. アメリカ合衆国——どんな国？

移民社会 例外 多様性（多民族・多言語・多宗教） *e pluribus unum* 多からなる

一州権主義 自由と平等

5. アメリカ合衆国の文化 特徴

多様性 異質性 チョイス 専門化・分業化 積極的姿勢 感情に素直、自由な表現
多文化教育

おわりに グローバル化時代を生きる 無知と恐れ

資料 9 割画 p p t 資料 A3 x 2

所感等 学びの意欲にあふれた方々を対象にお話しできたので、とてもやりがいを感じた。
往路は公民館の職員の方に大学まで迎えに来てもらい、復路はバスを乗り継いで
帰宅した。

職員の方とも村の現状、問題点について伺う機会があり、学びの一日となった。「日
本の美しい村」百選にもはいった村に歓迎していただき、ゆっくりと交流すること
ができた。今後も機関等から講座など学びの希望があれば、出向いていきたい。

(4) 生涯学習講座実施状況

公開講座会場別講座数・受講者数の推移（直近5年間）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
講座数 (件)	長野県カルチャーセンター	0	0	0	0	0
	長野市生涯学習センター	0	0	0	0	4
	東口キャンパス	7	18	16	20	19
	上野キャンパス	2	7	3	10	19
	その他	2	4	0	0	0
	合計	11	29	19	30	42
受講者数 (人)	長野県カルチャーセンター	0	0	0	0	0
	長野市生涯学習センター	0	0	0	0	30
	東口キャンパス	63	135	168	255	282
	上野キャンパス	25	24	19	59	316
	その他	63	8	0	0	0
	合計	151	167	187	314	628

■映画上映会入場者数の推移

(人)

映画上映会		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
		不開催	不開催	(かば)	不開催	不開催
	受講者数	0	0	64	0	0

■特別講演会受講者数の推移

(人)

講演会		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
					安田菜津紀氏	山村武彦氏
	受講者数				104	60

① 公開講座実績一覧

〈春学期〉

(人)

No	講座名	教員名	場所	実施日	参加数
1	日本周産期・新生児医学会公認 新生児蘇生法スキルアップコース (S コース)	上原 明子	東口	5月25日	5
2	歌って遊ぼう ～童謡・ふれあい遊び・やさしい合唱～①	池田 俊治	東口	5月25日	13
3	世界の歴史と文化ーなぜ日本は衰退するのか①	村田 信行	東口	5月25日	21
4	「なつかしさ」を研究してみよう	小松 仁美	東口	5月25日	8
5	「考える」を考える	中島 琢郎	生涯学習センター	6月15日	10
6	マーケティング入門	中島 琢郎	生涯学習センター	6月15日	5
7	異文化理解を深めてみようー深層文化を理解するための知識と手法ー	村松 直子	生涯学習センター	6月15日	5
8	日本語と英語のコミュニケーションスタイルを対照比較しようー言語と深層文化の関係性について考えるー	村松 直子	生涯学習センター	6月15日	10
9	歌って遊ぼう ～童謡・ふれあい遊び・やさしい合唱～②	池田 俊治	東口	6月29日	25
10	こころとからだの心理学 ～ストレスをうまくコントロールしよう～	寺門 正顕	東口	6月29日	24
11	世界の歴史と文化ーなぜ日本は衰退するのか②	村田 信行	東口	6月29日	12
12	睡眠の心理学	寺門 正顕	東口	7月27日	21
13	世界の歴史と文化ーなぜ日本は衰退するのか③	村田 信行	東口	7月27日	10
14	実習生が意欲的に取り組む保育実習 ※保育士等キャリアアップ研修【マネジメント】に対応	長谷川 孝子	上野	7月29日	33
15	ハ長調で弾くこどもの歌～保育に活かせる電子ピアノの裏ワザ～	山崎 浩	上野	7月29日	9

No	講座名	教員名	場所	実施日	参加数
16	発達に課題を抱える子ども理解とストレスケアアプローチ	小松 仁美	上野	8月24日	44
17	「子どもの「育ち」をつなぐ幼保小の接続―＜10の姿＞をいかすには―」	西山 薫	上野	8月24日	34
18	「子どもの一日の生活と保育」	碓井 幸子	上野	8月24日	31
19	ラテン語入門①	神門しのぶ	上野	8月5日	6
20	ラテン語入門②	神門 しのぶ	上野	8月6日	7
21	ラテン語入門③	神門 しのぶ	上野	8月7日	5
22	ビジネスコミュニケーション講座 電話応対編	森本 佑子	上野	不開講	0
23	人々は何を想って唄ってきたか ～アメリカンフォークソングの世界～	中村 洋一	東口	不開講	0
24	21世紀を生きる:グローバルな時代に何を学ぶか	中村 洋一	東口	不開講	0
25	コミュニケーションと思い込みの心理学	寺門 正顕	東口	8月31日	25
合計				22 講座	363

〈秋学期〉

(人)

No	講座名	教員名	場所	実施日	参加数
1	乳児の主体性と保育担当制 ※保育士等キャリアアップ研修【乳児保育】に対応	長谷川孝子	上野	11月2日	34
2	学び直しの幼児教育 “新” と “真” ※保育士等キャリアアップ研修【幼児保育】に対応	碓井 幸子	上野	11月2日	38
3	働きやすい環境作りに活かす コミュニケーションスキル	渡邊 智之	上野	11月2日	24
4	子どもの造形表現の理解と援助	樽井 美波	上野	11月2日	6

No	講座名	教員名	場所	実施日	参加数
5	ラテン語でクリスマスソング “Adeste” を歌いましょう	神門 しのぶ	上野	11 月 8 日	6
6	みんなで待ち望むクリスマスクリスマスリースを作りながら、クリスマスの本当の意味を学びましょうー	稲葉 景	東口	11 月 9 日	17
7	聖書を読もうークリスマスの物語を聖書で読もうー	稲葉 景	東口	11 月 9 日	11
8	人々は何を想って唄ってきたか ～アメリカンフォークソングの世界～	中村 洋一	東口	不開講	0
9	21 世紀を生きる：グローバルな時代に何を学ぶか	中村 洋一	東口	12 月 14 日	9
10	「考える」を考える	中島 琢郎	上野	1 月 29 日	9
11	子育てコーチング	中島 琢郎	上野	1 月 29 日	6
12	さらに続・ラテン語入門①	神門 しのぶ	上野	2 月 6 日	6
13	さらに続・ラテン語入門②	神門 しのぶ	上野	2 月 6 日	6
14	さらに続・ラテン語入門③	神門 しのぶ	上野	2 月 7 日	6
15	さらに続・ラテン語入門④	神門 しのぶ	上野	2 月 7 日	6
16	世界の歴史と文化ーなぜ日本は衰退するのか（世界史編）①	村田 信行	東口	2 月 22 日	24
17	発音再チェックー英文音読のコツ	富永 裕子	東口	2 月 22 日	10
18	合格する英作文を目指す！ーアカデミック・ライティングの基礎	富永 裕子	東口	2 月 22 日	5
19	臨床心理とキリスト教の視点からみた宮沢賢治「銀河鉄道の夜」	山崎 晃史	東口	3 月 1 日	17
20	世界の歴史と文化ーなぜ日本は衰退するのか（世界史編）②	村田 信行	東口	3 月 1 日	20
21	イースターって？ーイースターエッグを作りながら、イースターの本当の意味を学びましょうー	稲葉 景	東口	3 月 1 日	5
合計				20 講座	265

②出張講座実績一覧

No	テーマ	教員名	主催団体	実施日
1	音楽リフレッシュ	山崎 浩	千曲市戸倉公民館	5月17日
2	子どもの人権と不適切な保育	長谷川 孝子	大町市子育て支援課	6月15日
3	音楽リフレッシュ	山崎 浩	中野市西部公民館	8月19日
4	笑顔で築くユーモアコミュニケーションのすすめ	塚原 成幸	かがやきひろば篠ノ井	9月3日
5	音楽リフレッシュ	山崎 浩	古牧地区住民自治協	9月7日
6	音楽リフレッシュ	山崎 浩	長野市役所 柳原支所	10月17日
7	音楽リフレッシュ	山崎 浩	木島平社会福祉協議会	10月24日
8	英文学のファンタジー	村田 信行	かがやきひろば篠ノ井	10月30日
9	アメリカ文化と日本	古橋 昌尚	小川村公民館	11月7日
10	笑顔で築くユーモアコミュニケーションのすすめ	塚原 成幸	三陽老人福祉センター	12月3日
11	ワークライフバランス	小泉 真理	小川村公民館	12月8日
12	すべてのひとが生きやすい社会とは	稲葉 景	更北公民館	1月26日
13	日本文化にみるキリスト教	古橋 昌尚	中野市北部公民館	1月28日
14	音楽リフレッシュ	山崎 浩	小川村公民館	2月6日
合計				14講座

3. 地域活動部門活動報告

岡本 かおり

地域活動部門は、主にボランティア活動（イベント参加を含む）と地域との交流活動が中心となる部門である。

ボランティアに関しては、地域の企業や団体等から学生ボランティアの依頼をセンターが受け付け集約し、学生へボランティア情報を提供している。学生は大学から日常的な情報を発信している伝言板機能を用いてボランティア募集に関する情報を閲覧できる。また、センターのカウンターに来て、職員と話しながらファイルに綴じてあるボランティア募集を見することもできる。センターは、学生がボランティアに応募し、実際に行い、報告書を提出するまで、地域と学生をつなぐ総合窓口としての役割を担っている。

つまり、センターは学生の地域活動を支援するため、①ボランティア保険の加入手続き、②Let' Try ボランティア支援制度（後述）の申込み、③単位認定に関する業務、④活動全般にわたる相談など、学生が安心してボランティアに参加できる支援や体制を整えているのである。

ボランティア活動は、建学の精神を顕在化する活動であり、多くの学生が関心をもっており、年間を通じて一定数のボランティアを派遣してきた。2020 年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、約3年間は様々な制限を受けてきたが、2023 年度に様々な社会活動が再開されると同時に回復を見せた。2024 年度には地域で行われるイベントも多くが復活し、企業や団体のボランティア要請もコロナ禍前と同様になり、学生のボランティア参加人数も勢いを取り戻しつつある。

(1) ボランティア活動報告

ボランティア活動報告①

国際コミュニケーション学科 2 年 A.F.

私は須坂市消防団の音楽隊とお箏体験教室で活動を行っています。消防団では普通のボランティア活動とは違った経験をすることができました。また、お箏は先生の指導助手を毎年夏に行っています。

1. 参加の動機

消防団では自分のできることで地域に貢献をしたいと思い、部活動で吹奏楽部に所属をしていたので、一般の団員として活動をしていた父の紹介で須坂市消防団音楽隊に入隊しました。

お箏は私が教わっている教室の先生から指導のお手伝いを頼まれたため、高校生の時から指導助手をしています。

2. 消防団活動の感想

● 普段の活動

毎週日曜日の夜に訓練をしています。内容は、イベントに出演する際に演奏をする曲の練習と定期演奏会に向けた練習がほとんどです。稀に消防学校に行き訓練をしたり、須坂市消防署で講習を受けたりしています。

● カッタカタ祭り

2023 年 7 月の須坂市カッタカタ祭りに、参加しました。毎年開催式に消防団音楽隊のパレードがあり、入隊してから初めての発表の場でした。ですが今回は演奏せずにパレードの先頭で横断幕を持って行進をしました。演奏しながらではなかったので、祭りに来ていた方々の顔がよく見え、演奏を聴いてとても楽しそうで私も演奏をするときもこのくらい笑顔になってほしいと思いました。

● 定期演奏会

11 月に定期演奏会がメセナホールでありました。定期演奏会は 1 番大きい行事なので、約 1 年かけて準備をしました。毎年多くの方が聞きに来てくださり、私も今まで聞いている側でした。演奏する側になり、初めての定期演奏会でしたが緊張はあまりせずに自分も楽しみながらできました。また、チャリティーとして開催をしているので、たくさんの方に聞いていただけるように次の演奏会はさらに技術的に進歩したいと思っています。

同日に開催された消防フェスでは、女性消防団員として作った防災ボトルをス

タンプラリー形式にして配布しました。スタンプラリーでは、消火器を使った体験や煙体験、AEDの使い方を学べる内容でした。防災ボトルとは、外出先で災害が発生したときに家や避難所に着くまでの必要最低限の防災グッズが入っているボトルのことで、スタンプラリーに参加して景品を獲得した方々はとても喜んでいました。今回の消防フェスは、楽しみながら防災について学べる内容だったと思います。これからもこのような活動が増えてくると思うので、積極的に意見を出して防災に興味が出る活動をしていきたいです。

3. お箏体験教室

毎年夏に「須坂市伝統文化和楽器振興事業」として「須坂市伝統文化 お箏・尺八体験こども教室」があり、最終目標の納涼和楽器コンサートに向けて子供たちに指導をしている先生の助手として参加しています。

私は高校1年生の時に箏曲准師範の資格を取りました。この資格はお箏の先生になれるもので、教室も開けます。この資格を活かして子供たちに弾き方や楽譜の読み方を教えています。

自分が思っているよりも子供は上達をしていき、年々曲の難易度が上がっている気がしていますが、やはり子供は最終的に完成まで持っていけるのですごい集中力だなと思いました。また、なかなか子供たちに何かを教えるということがないので自分自身も関わり方などの勉強にもなりました。

4. 活動を通して感じていること

私が所属しているのは音楽隊ですが消防団員の活動として講習などがあり、時間が許す限り積極的に参加をすることで自分自身ができることが増え、責任感も感じるようになりました。なので、誰かが助けを必要としているときは率先して行動したいです。お箏については、私自身もこの体験教室から始めて、11年も続けています。この活動で仲間が少しでも増えたり、少しでも興味を持ってくれたら嬉しいなと思います。



定期演奏会



納涼邦楽コンサート

ボランティア活動報告②

看護学科看護学科 4年 A.K.

1. 参加の動機

本学で募集されている豊富なボランティア活動に参加することで、地域の方と触れ合い、コミュニケーションをはかる機会になると同時に、その場の空気感や臨場感を体験することができると思い参加しました。さらに、地域で暮らす人々と関わることで、今後の地域に必要な看護は何かを考えるきっかけ作りになると考え、1年間を通してさまざまな活動に参加しました。

2. 活動の感想

1)長野 AC パルセイロ 【ホーム戦】

初めてのボランティアは地域のサッカーチームの会場サポートボランティアに参加しました。試合は年間を通して数多く開催されており、ホーム戦では多くのサポーターの方が来場されるので、大勢のサポーターが円滑に会場入りすることができるようボランティアの人々が協力して運営にあたっていました。会場には子どもから高齢者まで幅広い年齢層のサポーターが県内外から来ていました。

活動内容は、サポーターの入場口に設置されている荷物チェックやチケットチェックを行うことでした。初めて参加させていただいたので、雰囲気分らず緊張しましたが、たくさんのベテランボランティア兼チームのサポーターの方々がいたので、初めてからでも参加しやすい会場でした。ボランティアスタッフの人数も多く、スタッフの交代や緊急対応など状況が変化するときには迅速な対応と綿密なコミュニケーションも重要な役割でした。さまざまな状況下でも全体の流れを止めずにスムーズに会場入りすることができるよう迅速かつ丁寧な対応が大切であると学びました。

会場には幅広い年齢層の観客が集まっており、それぞれ異なるニーズを持っていると感じました。例えば、小さな子どもには視線を合わせて親しみやすい態度で接する必要がある、高齢者には分かりやすい説明と安心感を与える配慮が必要でした。相手の状況や特性を理解し、柔軟な対応と臨機応変な行動が大切であると学びました。また、相手チームのサポーターの方もいるため、コロナ禍の対策として、マスク着用は必須でした。大勢のサポーターが集まるなかで集団感染が起きた場合、会場に来場していたサポーターを含め自分たちも不安な思いをすることになり、ボランティアや試合の継続が困難になる可能性もあるため、自己管理と呼びかけは重要であると学びました。別の日の試合では、検温チェックやカウンターなどさまざまな役割も経験し、来場者の健康と安全の保護に務めました。

会場では相手チームをリスペクトしながら応援するサポーターの熱気と声援で溢れていました。この会場だけでなくさまざまなイベント会場の運営をサポートしているのはボラ

ンティアや地域住民に人々の協力があることで成り立っているものであると実感しました。を行いました。自分もイベントの来場者として参加するときには、このような環境を当たり前と思わずに感謝の気持ちをもって参加したいと思いました。

長野 AC パルセイロ【ホーム戦】は合計 7 回参加させていただき、1 年を通して気温が高く暑い日も風が強く寒い日も来場するチームサポーターの人々が気持ちよく応援できる体制を維持できるよう安全面と健康面に配慮してサポートを行いました。

2) 子ども食堂

地域の子ども食堂ボランティアでは、前日の試作から当日の配布まで関わらせていただきました。私は、この活動に参加するまでは子ども食堂がどのような人に向けて行われ、どのような活動を行っているのか詳しくは知りませんでした。しかし、実際に参加してみて地域の子どもたちやその家族に無料で食事を提供し、食を通じて地域交流を深めることを目的として行われていることを知りました。

試作では、栄養バランスを考えながらも、そのときの季節の旬の食材を使ったり国外の珍しい料理を感じることができ、子どもが食べやすいメニューを作る難しさを感じました。また、調理中の衛生管理や食中毒を起こさないための保管方法が重要であることを改めて認識し、食事を通じて健康を守ることの責任の重さを実感しました。

当日の配布では、子どもたちが家族と一緒に喜んで食事を受け取る姿と元気な笑顔を見ることにやりがいを感じました。また、子どもたちが食事を笑顔で受け取る姿を見て、この活動が食を通じて地域に安心感を与えていることを実感しました。一方で、貧困や孤食といった問題を抱える家庭もあり、食事を通じて地域の健康格差を少しでも埋められる可能性を感じました。

このボランティア活動では、食を通じた地域の健康支援の重要性を学びました。また、食事が健康維持に果たす役割を学び、看護の現場でも患者さんの生活背景に合わせた支援の必要性を感じました。しかし、今回の活動のみで子どもたち全員がお腹いっぱいご飯を食べることができたというわけではなく、これは一部に過ぎないと実感しました。将来は地域看護にも目を向け、健康を支える一助として貢献できる看護師を目指していきたいです。

3) 第 4 回復興イベント「ながとよマルシェ」

台風 19 号の被害を大きく受けた長沼地区と豊野地区の長期的な支援活動を展開しているボランティア団体が中心に開催されている地域活性化イベントに 2 日間にわたって参加させていただきました。このイベントは、地域住民同士のつながりを取り戻し、復興に向けた活力を生み出すことを目指して開催されました。会場はたくさんの移動販売車や子どもたちが遊べるブースがあり、子どもから高齢者までいろんな人で賑わっていました。

私は会場設営や来場者の駐車場誘導、子どもたちの遊び場ブースの補助を担当しました。会場準備では、限られた時間内で効率的に動く必要があり、スタッフ同士のコミュニケー

ションが重要だと感じました。また、運営では、暑い中でも来場者が安全に安心して気兼ねなく楽しめるよう、細やかな配慮が求められました。

子どもたちの遊び場ブースの補助をする中で、元気に遊ぶ子どもたちの様子を見守りながら少しの間子どもと距離を置いて地域の人とお話をする母親がいました。そのような人のちょっとした息抜きにもなったのではないかと思います。そして、被災した家族や地域の方々が少しでも笑顔を取り戻し、前向きに生活している姿に感銘を受けました。また、地域のダンスクラブに所属している子どもたちのダンスパフォーマンスが披露されたり、小さな子どもも楽しそうに遊んでいる様子から、被災後も子どもたちが地域で元気に活躍している姿が印象的でした。

一方で、イベント会場は被災前もともと大きなスーパーが立ち並ぶ施設だったところの駐車場をイベント会場として再利用しており、その敷地内はイベントが終わると殺風景でした。イベント終了後のスタッフからは被災の影響で生活に不安を抱える声も聞かれ、継続的な地域支援の必要性を強く感じました。そして、この活動を通じて、災害復興支援における地域連携の重要性を学びました。また、災害後の地域住民の心のケアや生活支援が、看護の重要な役割の一つであると実感しました。特に、被災地の人々と接する際には、安心感を与えるコミュニケーションが重要であることを学びました。看護師として、災害時や緊急時に地域住民を支えるスキルを磨く必要があると感じています。今後も、地域活動や災害看護の学びに積極的に取り組み、地域に寄り添う看護師を目指していきたいです。

4) 『集楽元快祭』と『映画で楽しむ豊野の夜』 イベント

豊野地区で開催された『集楽元快祭』と『映画で楽しむ豊野の夜』という2つの地域イベントにボランティアとして参加しました。これらのイベントは、台風19号の被災地復興を目的に、地域住民の交流や癒しの場を提供することを目的としています。私は会場準備、来場者の受付誘導、物品販売の補助を担当し、地域住民の皆さんが安心して楽しめるイベントづくりをサポートしました。このイベントでは、地元の特産品や人々との対話を通じて多くの地域住民が交流を深めていました。私自身、イベントの補助を行いながら、被災の影響で不安を抱えた方々が笑顔で楽しむ姿に触れることができました。

『映画で楽しむ豊野の夜』では、屋外で車に乗りながら映画鑑賞を楽しむドライブインシアターで小さな子どものいる家族連れや友人同士が多く見られ、地域に安らぎをもたらしていると感じました。ドライブインシアターは周りの目が気にならないので、小さい子どもがいても安心して楽しめるため、会場は多くの車でいっぱいになりました。日中のイベントから引き続き、非日常を味わうことのできるイベントには会場に来場される参加者の方が安心してイベントを楽しむことができるようイベントスタッフの協力が必要不可欠であると実感しました。

この活動を通じて、地域住民が心の癒しや交流を求めていることを実感しました。また、このようなイベントの開催が地域の活性化につながり、人と人との結びつきと連携を強化

していき、被災からの復興の力につながっていると感じました。

今回のボランティア活動では、地域住民との交流や、被災地復興の一環としてのイベントの意義を学びました。復興支援活動に参加したことで、地域住民の生活背景に目を向ける地域看護の視点を養うことができました。

3. 活動を終えて感じること

県内でも行ったことのない地域やイベントに参加することで新たな視点の発見や出会いがあり、この 1 年間を通してさまざまな地域のボランティア活動に参加することができてとても光栄だと感じました。このようなイベントを開催するにあたっては、ボランティアの力が大きく、地域住民との交流や支援の重要性を学ぶことができました。また、実際にその地域に行ってみて初めて知ることやその場で感じるものがあり、人と人とのつながりが必要不可欠であり、地域住民の温かさを実感することができました。さらに、イベント運営の中での状況判断や周囲との協力の重要性も学び、広い視野を持つことの大切さを改めて実感することができました。また、試合会場では、多くの地域住民が一体感を楽しんでおり、スポーツが地域コミュニティを活性化させる重要な役割を果たしていると感じました。今回の活動で得た学びを活かし、地域住民の健康と福祉のあり方の充実を目指し、地域で暮らす住民の生活がより豊かになるよう看護職として働きかけていきたいと思いました。

(2) Let's Try ボランティア活動支援

地域連携センター

本事業は、学生の自主的な地域活動を支援する目的で作られた事業である。学生が企画・実施する活動、または地域の団体や人々と協働で行う地域活動が条件である。募集を行い、希望する個人または団体が応募、地域連携センターにて審査する。採択された活動には、活動費の一部を支援している。

今年度は以下の3件の活動が採択された。

活動名	『チャイルドライン ながの』受け手ボランティア
内容	チャイルドラインながのでの「受け手ボランティア」の養成講座の研修を受け、実際に子どもたちの相談を受けるボランティア活動をする
連携団体	NPO 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト チャイルドラインながの

活動名	STAR OF LIFE CIRCLE
内容	石川県能登町での被災者支援 ①復旧期の被災者支援活動 ②被災者や支援者の健康支援活動(生活相談支援員に同行、在宅・仮設住宅を訪問し健康支援を行う)
連携団体	長野県社会福祉協議会、石川県能都町社会福祉協議会、 ボランティア団体：結

活動名	ワールドフェスタ in 長野 2024
内容	長野市で行われるワールドフェスタ in 長野にブースを出展し、SDGs すごろくを通して地域住民との交流、およびネパール障がい者コミュニティへの募金活動を行う
連携団体	長野市観光振興課インバウンド・国際室

Let's Try ボランティア 活動報告書①

活動名： チャイルドラインながの受け手ボランティア

活動メンバー： 心理コミュニケーション学科3年 Y.H.

実施期日 2024年 12月18日, 2025年 1月8日/1月22日

養成講座実施期日 9月28日/10月5日/10月26日/11月16日/12月7日

活動場所 もんぜんぷら座

活動内容

事前に計5日間の養成講座を受講し、電話の受け手として、チャイルドラインの活動に参加する。

チャイルドラインでは、18歳までの子供（小学生・中学生・高校生）の声を聴く活動を行っている。チャイルドラインながのは、主に電話での活動となる。

成果

電話の受け手として、子供たちが抱えている日常生活での悩みを聴くことができた。話を聴くことによって、子供たちに対して、「地域社会には話を聴いてくれる大人が居る」というメッセージを示すことができた。

また、実際に子供たちがどのような悩みを抱えているのかを聴くことで、子供たちが望む社会の在り方を考えるきっかけが得られた。

チャイルドラインでは、個別の悩みを解決することはあまりできないが、子供たちの声をまとめ、社会へ発信することができる。発信するための情報源としても、ひとつひとつの声を丁寧に聴き、あつめることができた。

ボランティアを行う際は、子どもたちの声を否定することなく受け止められるのか不安であったが、養成講座などで学んだことを思い出しながら、一生懸命頑張った。途中で電話を切られたときは、自分に至らない点があったのかもしれないとショックを受け、自分にはこのボランティアは向いていないかもしれないと思ったこともあった。しかしながら、「話していたらスッキリした」と言ってくれた子どももいて、ボランティアに参加してよかったと思っている。

Let's Try ボランティア 活動報告書②

団体名： star of life circle

活動名： 令和6年能登半島地震の被災者へのボランティア活動

活動メンバー： 看護学部1年（2名）T.A、Y.M

2年（3名）K.M、S.C、E.A

3年（4名）K.A、Y.A、M.Y、Y.M

実施期日 2024年 9月 4日(水)～9月 5日(木)

活動場所 石川県能登町 能登町被災住宅

能登町宮地の「春蘭の里」（交流宿泊所こぶし＋農家宿泊群）

活動内容

①復旧期の被災者支援活動(被災者の住宅、住地等のがれき等の撤去および被災者の生活支援等)を行う。

②被災者や支援者の健康支援活動(血圧測定、足浴、不安の傾聴)を行う。



成果

被災者の生活再建へのボランティア活動と交流を通じた健康支援活動を行うことで、被災生活の実態と被災者のニーズを把握した支援を行うことができたと実感した。

ボランティア受け入れ先からは「まだ完全に復旧しきったわけではないし、余震が続いて怖い思いをしている。学生さんが来てくれてこの時間だけでも笑顔で楽しい時間を過ごすことができて良かったと思う」とのコメントをいただき、被災とは災害発生時だけでなくそれに関連して起こる全ての事象によってその後も起こりえること、自分達のようなボランティアが現地で活動を行ったことで被災者に影響を与えることができることを学んだ。

机上の知識だけではなく、実際に現地を訪れ活動・交流することで、新たな問題を発見した。この経験を今後の大学での学習と看護師の役割について探求していきたい。

Let's try ボランティア 活動報告書③

活動名：ゴー・ゴールズ！すごろくで SDGs を知ろう

ワールドフェスタ in 長野

活動メンバー 6 名

看護学部 4 年生 Y.Y (リーダー)

看護学部 2 年生 Y.M、M.N、M.Y、Y.W、K.W.

実施期日：2024 11 月 2 日 (土) 9:00~16:00

活動場所：セントラルスクエア

活動内容【活動概要】

①長野市主催のワールドフェスタ in 長野に参加し、「SDGs を自分ごと化する」取り組みとして、WHO 推奨のすごろくのゲームを通して、地域住民に自分達の身の周りや世界の事象に関心を寄せてもらう活動を行った。

②2024 年 8 月に国際看護・海外演習で赴いたネパール・カトマンズの障がい者自助グループ「アパンガ・アスラム」に対する生活支援のための募金活動を行った。カトマンズは同年 9 月の豪雨災害で大きな被害を受けていた。

【結果】

①すごろくゲーム参加者：22 名

幼児～高齢者、国内外の観光客が参加

手製のすごろくボード、サイコロ、コマを用いてすごろくを進めながらクイズに解答していただき、参加者にはエコ・ミニハンカチを進呈した。世代、国を越えた交流を通して、SDGs に関心を寄せてもらうきっかけづくりに貢献できた。

②障がい者自助グループ「アパンガ・アスラム」の募金活動

会場内で募金箱を持ち歩きながら、当該グループ（55 名が生活するコミュニティ）の暮らしの実際、2024 年 9 月の洪水の現状を来場者に伝え寄付を募った。その結果、多くの来場者が足を止めて本活動への関心、理解を示してくださり、募金に繋げることができた。

募金結果：10,487 円

10/12 (土) 清泉祭での募金との合計

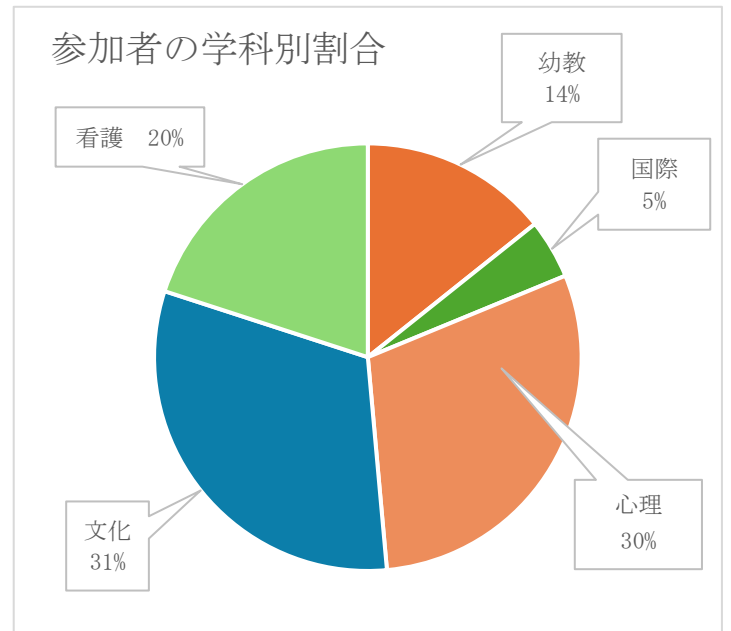
募金の渡し方：HIS のスタディーツアーデスクの担当者に依頼して現地へ届けた。

(3) 2024 年度ボランティア活動参加状況

(学科学年別年間参加延べ人数)

(人)

所属	参加延べ人数	学科合計
幼教 1 年	28	35
幼教 2 年	7	
国際 1 年	9	11
国際 2 年	2	
心理 1 年	10	73
心理 2 年	25	
心理 3 年	34	
心理 4 年	4	
文化 1 年	35	77
文化 2 年	33	
文化 3 年	8	
文化 4 年	1	
看護 1 年	21	49
看護 2 年	17	
看護 3 年	4	
看護 4 年	7	
合計	245	245

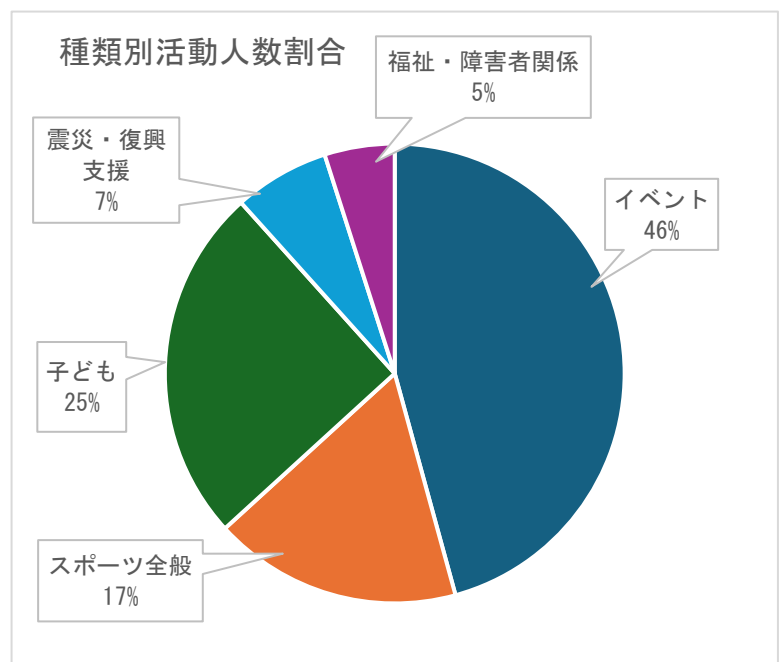


◆ ボランティア種類別状況

<活動依頼件数>

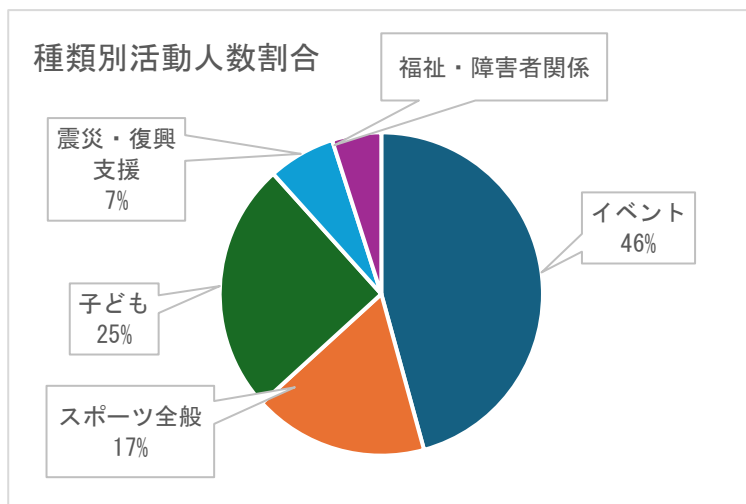
(件)

区分	延べ人数
イベント	102
スポーツ全般	39
子ども	56
震災・復興支援	15
福祉・障害者関係	11
その他	22
合計	245



〈活動人数〉 (人)

区分	延べ人数
イベント	102
スポーツ全般	39
子ども	56
震災・復興支援	15
福祉・障害者関係	11
その他	22
合計	245



ボランティア活動参加人数推移

	2019 年度		2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
所属	活動人数	学科合計	活動人数	学科合計	活動人数	学科合計	活動人数	学科合計	活動人数	学科合計	活動人数	学科合計
幼教 1 年	204	356	108	119	113	126	9	11	4	20	28	35
幼教 2 年	152		11		13		2		16		7	
国際 1 年	56	93	60	67	41	54	18	20	20	28	9	11
国際 2 年	37		7		13		2		8		2	
心理 1 年	62	225	57	84	33	80	19	40	42	91	10	73
心理 2 年	98		15		28		4		34		25	
心理 3 年	22		11		12		8		13		34	
心理 4 年	43		1		7		9		2		4	
文化 1 年	7	19	31	42	5	14	23	38	28	44	35	77
文化 2 年	12		4		4		13		10		33	
文化 3 年			7		4		2		5		8	
文化 4 年					1				1		1	
看護 1 年	43	43	21	23	76	92	21	26	45	52	21	49
看護 2 年			2		13		5		6		17	
看護 3 年					3				1		4	
看護 4 年									0		7	
合計	736	736	335	335	366	366	135	135	235	235	245	245

(4) 2024 年度 ボランティア活動実績

No	名称	実施日	幼教	国際	心理	文化	看護	総計
1	第 26 回長野マラソン	4 月 21 日	3		3	1	3	10
2	長野パルセイロ試合	4 月 10 日			1			1
3	長野パルセイロ試合	5 月 3 日			1			1
4	第 8 回ながの獅子舞フェスティバル	5 月 3 日				25		25
5	NAGNAO 善光寺よさこい	5 月 4 日	5		2	3	5	15
6	おやまのこども商店	5 月 11 日	2		1		1	4
7	長野パルセイロ試合	5 月 18 日			1			1
8	第 5 5 回長野市障がい者スポーツ大会	5 月 19 日	4		4	2		10
9	長野パルセイロ試合	5 月 22 日			2			2
10	NAGANO子どもゆめ体験会	5 月 25 日～ 6 月 22 日			2	4		6
11	長野地区障がい者スポーツ協会 →天候不良により中止	6 月 2 日						0
12	第 8 弾ながとよマルシェ	6 月 8 日				4		4
13	6/8 びんずる市	6 月 8 日			1	2		3
14	長野パルセイロ試合	6 月 8 日			1			1
15	長野パルセイロ試合	6 月 22 日			1			1
16	地域いきいきスポーツ DAY 6/23	6 月 23 日			2	3		5
17	7/13 びんずる市	7 月 13 日				6		6
18	小布施見にマラソン大会	7 月 14 日	3			1		4
19	7/20 長野パルセイロ試合	7 月 20 日			1			1
20	長野びんずる祭り	8 月 3 日			3			3
21	自由研究&工作フェス	8 月 3 日			1			1
22	こども祭り in 千曲	8 月 11 日			7			7
23	長野パルセイロ試合	8 月 17 日			1			1
24	かるかや縁日→台風により中止	8 月 30 日 ～31 日						0
25	ナガノカルチャーフェスタ	8 月 31 日					1	1

No	名称	実施日	幼教	国際	心理	文化	看護	総計
26	能登半島被災地支援ボランティア ①	9月4日～ 9月5日					9	9
27	ものづくりフェア千曲	9月5日～ 7日			2			2
28	長野パルセイロ試合	9月7日		1				1
29	地域いきいきスポーツ DAY 9/15	9月15日	3					3
30	長沼ニュースポーツ大会	9月21日	1	1				2
31	長野県支部合同災害救護訓練ボランティア→中止	9月29日						0
32	長野パルセイロ試合	10月5日	2					2
33	第36回信州須坂ランニングフェス	10月13日		1	2			3
34	リレーフォーライフジャパン 2024 信州長野	10月19日				1		1
35	第9弾ながとよマルシェ	10月19日			2	6		8
36	長野パルセイロ試合	10月19日					3	3
37	地域いきいきスポーツ DAY 10/20	10月20日	2	2				4
38	ハーモニー「夢」まつり	10月26日			1			1
39	災害対応訓練ボランティア	10月26日					1	1
40	能登半島被災地支援ボランティア ②	11月2日～ 11月3日					5	5
41	おこさマルシェ	11月3日	1					1
42	長野パルセイロ試合	11月9日		1	1			2
43	若槻総フェスタ	11月16日				16		16
44	長野パルセイロ試合	11月24日		1	1			2
45	ゆたかのスポコミ東北ロードレース大会	12月1日		2				2
46	ひよこ保育園大講演会	12月1日	4					4
47	クリスマスマーケット	12月13日					7	7
48	長野市放課後子どもプラン アドバイザー	通年	3	1	9		1	14
49	大学生警察ボランティア	通年	1		7	1		9

No	名称	実施日	幼教	国際	心理	文化	看護	総計
50	学習チューター	通年			6	2		8
51	千曲万博	1月26日	1					1
52	長野灯明まつり	2月2日			4			4
53	遊びで育てるパパママ教室	2月2日			3			3
54	もんぜんパートナーシップ	5月29日～ 11月13日					13	13
55	長野パルセイロ試合	3月1日		1				
	合計		35	11	73	77	49	245

クリスマスマーケット ボランティア



第 36 回信州須坂ランニングフェス
ボランティア